

東京藝術大学 令和 2 年度 財務レポート

(令和 2 事業年度 令和 2 年4月1日～令和 3 年3月31日)

東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中核として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、西欧の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

こうした歴史的経緯を踏まえ、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- ・世界最高水準の芸術教育を行い、高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者を養成する。
- ・国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- ・心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。

東京藝術大学 NEXT 10 Vision



革新的であること

—もっと 新しい、独創に向けた挑戦を—

多様性があること

—もっと 幅広い、才能が刺激し合う場を—

国際的であること

—もっと 世界へ、日本の芸術文化の発信を—

平成29年10月、東京藝術大学は創立130周年を機に、今後10年歩むべき方向性を全学的に議論し「東京藝術大学 NEXT 10 Vision」を策定しました。これからの10年、東京藝術大学はこの3つのビジョンに向かって、“オール藝大”体制の下、力強く進んでまいります。



第3期中期目標期間におけるビジョン

第3期中期目標期間（H28～R3年度）においては、第3期中期目標・中期計画および学長宣言2016において、以下の目標を掲げ、大学改革や機能強化に取り組んでいます。

- ・芸術が持つ無限の可能性を確信し、豊かで創造性に満ちた社会を実現する
- ・世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、日本の芸術文化力の向上に資する
- ・芸術の魅力や素晴らしさ、芸術大学の価値・存在意義を証明していく

実現のためのアクション（大学改革・機能強化推進戦略2016）

教育・研究

世界トップアーティストの戦略的育成の推進

新たな大学院組織整備、海外連携大学等との国際共同プロジェクト、早期教育の拡充

国際的芸術教育研究拠点の形成

国内外の大学・研究機関等とのネットワーク強化、海外派遣・受入の促進

革新的アートイノベーションの創出

産学官連携・分野融合による学際的研究を推進

入試改革・高大接続モデルの構築

国際バカロレア資格活用等新たな選抜方法、音楽学部飛び入学等新たな高大接続モデル

キャリア支援プログラム・経済的支援の強化

卒業後も含めたキャリア支援、新たな奨学金制度等経済的支援の充実

社会連携

アートプロジェクト・早期教育プロジェクト等の全国展開の推進

地域の芸術文化潜在力の活かした全国的な活動展開

産学官連携強化・パートナーシップの構築

全国芸術系大学コンソーシアム、大学・研究機関・産業界・自治体とのパートナーシップ構築

芸術の力を活かしたソーシャルプラクティスの推進

復興支援や共生社会の実現に向けたソーシャルプラクティスの推進

大学運営

ダイバーシティな大学環境整備・システムの構築

多様な人材に対応した支援やキャンパス機能の強化

教育研究・芸術活動成果の社会還元等プロモーション活動の実行

クラウドファンディング、藝大アートプラザ等、芸術活動成果の戦略的発信

持続可能型キャンパスマネジメントシステムの確立

中長期的なキャンパスグランドデザインの構築

経営力強化・財務運営基盤の構築

学内資源の合理化・再配分、戦略的ファンドレイジング実施

同窓生・支援者等とのネットワーク基盤の構築

同窓生との持続的・発展的な交流確保、支援者との緊密な連携協力関係の構築

第3期におけるより詳細な目標・計画についてはこちら

[第3期中期目標・中期計画一覧] https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/legal02ro_03ichiran20180416.pdf

東京藝術大学の基礎情報

学生数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	991名	1,008名	-	-	1,999名
大学院（修士）	555名	303名	141名	34名	1,033名
大学院（博士）	158名	70名	18名	21名	267名
別科	-	57名	-	-	57名
附属高等学校	-	116名	-	-	116名

学位授与数・修了者数・卒業者数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	219名	215名	-	-	434名
大学院（修士）	234名	92名	50名	8名	384名
大学院（博士）	26名	9名	0名	1名	36名
別科	-	12名	-	-	12名
附属高等学校	-	37名	-	-	37名

※論文博士を含む

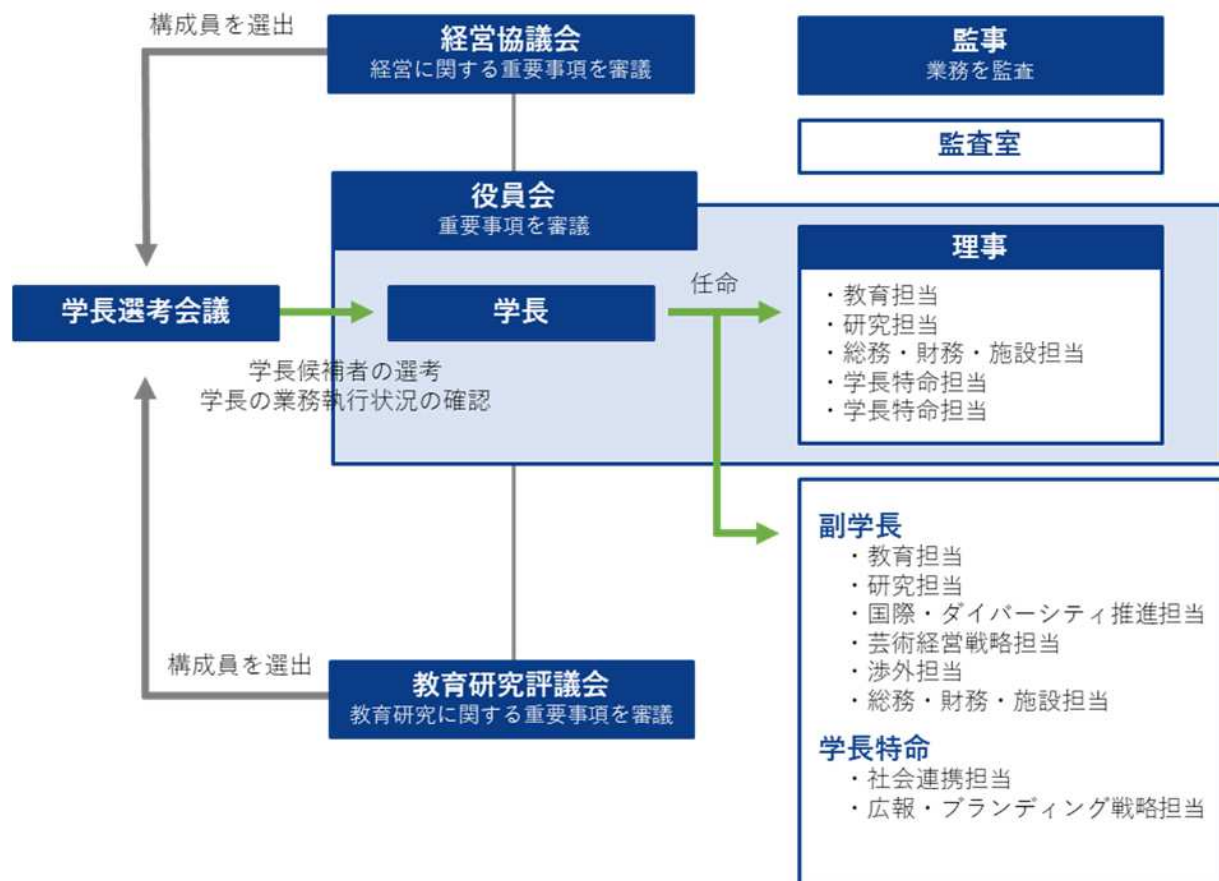
教職員数	
教員	253名
職員等	164名
合計	417名

国際交流	
大学間交流協定締結機関	26カ国・地域 79機関
外国人留学生	33カ国・地域 279名

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和2年度実績
それ以外は令和3年5月1日現在の実績を示す

土地面積		
校地	建物延	土地
上野校地	97,195㎡	69,365㎡
取手校地	20,316㎡	164,095㎡
横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
千住校地	6,546㎡	4,045㎡
奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
松戸・国際交流会館	1,592㎡	2,088㎡
東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
愛住・美術愛住館	556㎡	350㎡
合計	140,754㎡	251,473㎡

所蔵品・楽器・蔵書	
美術工芸品・標本・資料	30,193件
楽器	2,790点
蔵書冊数	392,599点
雑誌	5,333タイトル



部局	事務局
・学部 ・美術学部 - 事務部 ・附属古美術研究施設 ・附属写真センター ・音楽学部 - 事務部 ・附属音楽高等学校 ・藝大フィルハーモニア管弦楽団 ・大学院 ・美術研究科 ・音楽研究科 ・映像研究科 - 事務部 ・国際芸術創造研究科 ・大学別科	・総務課 ・戦略企画課 ・国際企画課 ・社会連携課 ・学生課 ・施設課 ・千住校地事務センター



澤和樹学長ゆるキャラ
「カズキチャマ」

令和2年度の主なTOPIC

東京藝術大学COI拠点による、コロナ禍を踏まえた研究開発と成果の社会実装

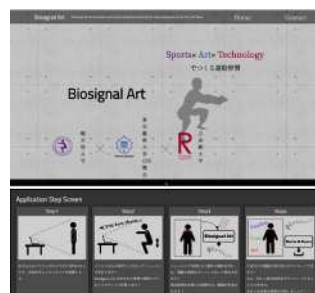
コロナ禍を踏まえた研究開発・社会実装を展開し、デジタル技術の活用含め、ソーシャルディスタンスの確保やロケーションフリーを実現する新たな展示・発表手法を導入した「スーパークローン文化財展」を横浜そごう美術館、北九州市旧大連航路上屋、福岡県大野城市心のふるさと館において開催しました。

また、音楽分野における取組としても、オンラインの活用、密を避けたイベント、演奏者の密を避けた編曲等、コロナ禍でも継続可能な施策を具体化し、Zoomコンサート「Art Vaccine」、「だれでもピアノ」を弾こう！シニアのレッスンシリーズ、発達障害支援ワークショップ「音と光の動物園」、オンライン・コンサート「AI ベートーヴェン」等を展開しました。

加えて、COI拠点の研究成果によりデジタル・トランスフォーメーションやソリューションの開発を先導し、大学における遠隔授業やオンラインイベントの実施に係る技術提供、令和2年度小学校音楽教科書副教材DVDの横浜市内小学校の「学習動画」配信への提供、楽しく効果的な運動を促進することで健康維持に役立つウェブアプリ「Biosignal Art」の発表等、コロナ禍の課題への対応を進めました。



オンライン・コンサート「AI ベートーヴェン」



ウェブアプリ
「Biosignal Art」

東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクトによる、芸術の新しい可能性の発信



ヤギの目でアートと社会を見るためのプロジェクト

茨城県取手市において教職員と市民が協働し、ヤギの飼育を核として、森林整備や飼育場の設計制作、地域連帯、作品への昇華など様々な知的な刺激を目指す取組。

人工知能やロボットなど、科学技術が急速に発展する現代社会において、芸術の役割・あり方や新しい可能性を示すことを目的として、東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクトを実施しました。

同プロジェクトでは、学内公募により教員や学生から企画提案を募り、実施経費を助成することで芸術が社会の基盤として人に豊かさをもたらすことや、科学・医学・福祉などと結び付き新たな価値を生み出すことで社会を変え、問題を解決できること等を実践によって示すことを推進しました。

各企画の概要・成果はWebサイト上にアーカイブとして蓄積し、これからの社会を見据えた、様々な形による芸術の可能性・重要性を、継続的に発信しています。

「上野トイレミュージアム」のオープン

上野公園エリアの魅力向上の一環として、本学から東京都への提案を契機として、令和2年9月に上野公園内に「上野トイレミュージアム」がオープンしました。同施設は本学学生により企画され、各トイレブースにテーマとなる動物が設定され、それぞれの動物とその生育環境が壁面のタイルや手摺、流水音等で表現されています。

設計・監理は大学院美術研究科建築専攻中山英之研究室が行い、作品制作は大学院美術研究科の建築・陶芸・鍍金・デザイン・絵画の各専攻および大学院音楽研究科と音楽学部の学生有志によって行われました。



「東京藝術大学 若手芸術家支援基金」の創設による様々なプロジェクトの実施

コロナ禍により大きな影響を受けている若手芸術家に対して、芸術活動の持続化を支援するための「若手芸術家支援基金」を創設しました。

芸術の力を未来へと繋ぐ若手芸術家たちの、「今を救うこと」と「未来のカタチを模索すること」の2つを使命として、以下に挙げる①～④の支援プロジェクトを実施していくことを掲げ、自己財源に加えて、一般企業からの協賛金や東京藝術大学基金への一般の方々からの寄附、クラウドファンディングによる約3,725万円の支援金等を集め、具体的な支援を行う為の原資としました。



①「東京藝大緊急学生支援奨学金」の給付

新型コロナウイルス感染症の影響により、学資負担者又は学生本人の収入(アルバイトを含む)が減少し学生生活に支障を来している学生を対象として、**修学の継続を支援するために、返済を要しない奨学金(5万円)を約500名に給付**しました。

②「新しい日常」における対面芸術鑑賞会の実施に係る助成金の支給

美術館や演奏ホールが閉鎖し、また、展覧会・音楽会の延期や中止が相次いでいることを受け、「アート・ルネッサンス支援プログラム～芸術の新たな『ふれあい』を創ろう～」として本学出身の若手芸術家を対象とした公募事業を行い、**十分な感染予防対策を講じた上での対面芸術鑑賞会の開催を内容とする、芸術活動再開に向けて工夫し、積極的に取り組んでいく企画に対して、合計約1,500万円を助成**しました。

③東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト2021の実施

人工知能やロボットなど、**科学技術が急速に発展する現代社会において、芸術の役割・あり方や新しい可能性を示すことを目的とする東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト**について、2020年度の事業に引き続き、若手芸術家支援の一環として、**新たな公募を実施した。「I LOVE YOU」プロジェクト2021では、「SDGsの達成への貢献」をテーマとして企画公募を行い、132件の申請の中から58件の企画を採択し、在学生や卒業・修了生等に対して合計2,000万円を助成**した。

④「東京藝大アートフェス 2021」の開催

令和3年3月より、本学出身のアーティスト(在学生を含む)を対象に、**新たな作品発表の場を提供し、若手芸術家としての人材育成とサポートをするため、オンライン上でのアートフェス「東京藝大アートフェス 2021」を開始した。310点の応募作の中から選出された119点がWebサイトで発信され、一定期間の公開後に審査を経て、優秀作品には賞及び賞金が授与**されます。

学部・研究科の実績

美術学部・研究科

卒業・修了作品展 2021 バーチャルツアー

卒業・修了作品展を、大学美術館等のリアル会場に加え、新たな試みとしてバーチャル会場で開催しました。

バーチャル環境上に展示スペースの広さ・高さ、展示作品の大きさや配置等、現実空間をリアルに再現するとともに、来館者の動線・視点を踏まえた展示を可能にすることで、作品一つ一つだけでなく、空間的な演出や作品間の相関関係なども楽しめる手法を実現しました。



地方自治体との連携による美術教育を通じた地域文化の振興

青森県からの委託事業「あおもり文化みらいびと育成事業企画・運営業務」において、美術教育と工芸科染織の両研究室が協力し、縄文文化をテーマとした文化芸術体験・学習プログラムとして、オンラインを活用して小学校3校（計150名）および中学校1校（計228名）等にて植物繊維を使った網制作のワークショップを実施しました。

この成果をもとに、青森市内の小学校教諭向けのワークショップを行うとともに教育現場の理解と協力に向けて意見交換を行い、本プログラムが実際の授業として採用されることとなりました。

財務情報

（単位：百万円、単位未満切り捨て）

教育研究環境への投資状況

653

主な内容

- ・彫刻棟の老朽化に伴って改修工事を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。
- ・取手校地における給排水設備や排水処理設備等の老朽化に伴ってライフライン再生工事を実施しました。

財源の内訳

運営費交付金	43
授業料・その他自己収入	33
目的積立金	31
寄付金	11
施設整備費	535
補助金	0

運営状況

費用 3,267		収益 3,297			
教育経費	657	運営費交付金収益	1,468	外部資金の内訳	
研究経費	190	学生納付金収益	1,077		
教育研究支援経費	0	外部資金	665		
受託研究他	208	自己収入	12		
人件費	1,957	その他	75		
一般管理費	254				
その他	1				
				受託研究収益	30
				共同研究収益	0
				受託事業等収益	189
				寄附金収益	118
				施設費収益	279
				補助金等収益	46

「和楽の美」の映像制作・オンライン配信

本学の邦楽分野の総力を上げ、銀座・観世能楽堂にて様々な日本の古典芸能で構成される公演「和楽の美」を撮影し、映像作品としてオンラインで配信しました。

雅楽、半能、箏曲、長唄、仕舞、尺八、日本舞踊、邦楽囃子等、日本の芸術文化の魅力を世界に届けられるコンテンツを制作・発信しました。



コロナ禍における音楽活動への取組

企業との共同による演奏時の飛沫を可視化する測定試験の実施

企業との共同研究として、「音楽教育時の飛沫の可視化」を実施しました。声楽・楽器などの歌唱・演奏を行った際に発生する飛沫について、微粒子可視化システムなどを用いて検証し、楽器や歌唱言語の差異、フェイスガードや不織布マスク等の感染対策方法の種類等を踏まえて分析し、飛沫量や飛距離等についての客観的なデータを得ることができました。

専門家による現地調査等を踏まえた演奏会に係る運営マニュアルの作成

演奏芸術センターと共同で、コロナ禍において対面による演奏会のリスクを低減しつつコスト面の負担もできる限り抑えることを目的とし、専門家による調査・分析や、「演奏会再開に向けた『試演会』」の開催による検証等を踏まえて、「演奏会の新しいカタチ」として詳細なマニュアルを整備するとともに、要点をまとめた動画を作成しました。

財務情報

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

教育研究環境への投資状況

52

主な内容

- ・練習ホール館の空調設備を改修工事により機能向上を図り、学生への指導や自主練習、演奏の実践等の環境を向上した。
- ・GIGAスクール構想の実現のため、情報機器整備費補助金により附属高校の校内LANを更新・増設しました。

財源の内訳

運営費交付金	1
授業料・その他自己収入	28
目的積立金	0
寄付金	8
施設整備費	15
補助金	0

運営状況

費用 2,063		収益 2,091			
教育経費	418	運営費交付金収益	951	獲得外部資金の内訳	
研究経費	39	学生納付金収益	878		
教育研究支援経費	1	外部資金	147		
受託研究他	32	自己収入	22		
人件費	1,535	その他	93		
一般管理費	38				
その他	0				
				受託研究収益	22
				共同研究収益	4
				受託事業等収益	5
				寄附金収益	66
				施設費収益	0
				補助金等収益	47

オンラインを活用した新しい手法による国際共同教育プログラム

南カリフォルニア大学とのオンラインを活用した国際的な双方向の教育手法（ゲーム作品の共同制作におけるBurndown Chart(制作進行表)を用いたチームメンバーの役割や各工程の重要度等の視覚化、成果発表展覧会のオンライン開催等）が、令和2年10月の教育再生実行会議高等教育ワーキング・グループでコロナ禍における効果的な教育プログラムの事例として取り上げられました。



オンラインの成果発表展覧会における
著名配信者によるゲーム実況

日中韓学生アニメーション国際共同制作の全プロセスのオンラインによる実施

平成22年度より毎年度継続している日中韓3カ国の学生によるアニメーション作品の国際共同制作（Co-work）について、初めての試みとして、企画から仕上げまでの共同制作の全てのプロセスをオンラインで実施しました。

本学・韓国綜合芸術学校・中国伝媒大学の3大学27名の学生が、3カ国混成の5つのチームに分かれ、11日間にわたりインターネット上でアニメーションの企画から制作までを集中して実施しました。期間中、3カ国の学生たちは自宅から参加し、言語や文化の違いを乗り越えて初めて出会う仲間たちと、毎日、インターネットを通じてプロセスを共有しながら制作に挑み、最終成果発表の上映会もオンラインで開催され、ゲストの講評者からも高い評価を得ました。

財務情報

（単位：百万円、単位未満切り捨て）

教育研究環境への投資状況

15

主な内容

・映画制作に必要なレシーバーを電波法の改正に対応したものに更新し、実習活動の継続性を確保しました。

財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	4
目的積立金	7
寄付金	0
施設整備費	0
補助金	4

運営状況

費用	544	収益	588													
教育経費	99	運営費交付金収益	349	獲得外部資金の内訳 <table><tr><td>受託研究収益</td><td>0</td></tr><tr><td>共同研究収益</td><td>0</td></tr><tr><td>受託事業等収益</td><td>44</td></tr><tr><td>寄附金収益</td><td>26</td></tr><tr><td>施設費収益</td><td>0</td></tr><tr><td>補助金等収益</td><td>57</td></tr></table>	受託研究収益	0	共同研究収益	0	受託事業等収益	44	寄附金収益	26	施設費収益	0	補助金等収益	57
受託研究収益	0															
共同研究収益	0															
受託事業等収益	44															
寄附金収益	26															
施設費収益	0															
補助金等収益	57															
研究経費	68	学生納付金収益	100													
教育研究支援経費	0	外部資金	128													
受託研究他	43	自己収入	0													
人件費	330	その他	11													
一般管理費	4															
その他	0															

国立台北芸術大学とのオンラインによる芸術文化交流プログラム

国立台北芸術大学芸術跨域研究科との共同により、「Museum Without Border」をテーマとして、数か月間に亘る芸術文化交流プログラムをオンラインで実施しました。

遠隔地にいながら互いの経験や時間を共有する試みを実施するなど、オンラインを活用して多様な文化背景や専門性をもった学生同士が長期的に繰り返し交流を積み重ねることで、主体的にアイデアを出し合い、新しい国際交流のあり方を探る貴重な機会となるとともに、渡航を伴う短期集中型の共同授業では得られない深い議論や学習に繋がりました。

文化政策人材育成プロジェクト「Meeting アラスミ！」

先進的な事例に取り組む自治体・団体と協力して学びと実践の場を提供する人材育成プロジェクトとして2019年度から始まった「Meeting アラスミ！」を、令和2年度の文化庁の「大学における文化芸術推進事業」の採択を受け、引き続き実施しました。

今年度は芸術文化プログラムとその評価についてや、芸術表現体験活動と省察活動について考える場を設けた他、足立区においてオンラインを交えた音楽を身体を使った芸術プログラムの実施や、隅田川を全面的に用いたコンサート演出の実現に向けた検討を進めました。

これらの実践が芸術文化プログラムが果たす役割を検討・再認識する機会となり、連携する自治体・団体から高い評価を得ました。

財務情報

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

教育研究環境への投資状況

3

主な内容

・カメラ等の機材を導入し、オンラインによる国際交流プロジェクトの実施効率の向上と事業促進を図りました。

財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	3
目的積立金	0
寄付金	0
施設整備費	0
補助金	0

運営状況

費用 138		収益 138														
教育経費	17	運営費交付金収益	93	獲得外部資金の内訳 <table><tr><td>受託研究収益</td><td>0</td></tr><tr><td>共同研究収益</td><td>0</td></tr><tr><td>受託事業等収益</td><td>0</td></tr><tr><td>寄附金収益</td><td>2</td></tr><tr><td>施設費収益</td><td>0</td></tr><tr><td>補助金等収益</td><td>12</td></tr></table>	受託研究収益	0	共同研究収益	0	受託事業等収益	0	寄附金収益	2	施設費収益	0	補助金等収益	12
受託研究収益	0															
共同研究収益	0															
受託事業等収益	0															
寄附金収益	2															
施設費収益	0															
補助金等収益	12															
研究経費	23	学生納付金収益	28													
教育研究支援経費	0	外部資金	15													
受託研究他	0	自己収入	0													
人件費	98	その他	2													
一般管理費	0															
その他	0															

令和 2 事業年度決算

財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和 2 年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。
https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation

1. 貸借対照表の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和元年度)	令和2年度	増減	増減比
資産の部	(71,207)	71,549	342	0%
【主な科目】				
土地	(37,292)	37,292	0	0%
建物・構築物	(21,511)	21,185	△ 325	-2%
工具器具備品 ※1	(544)	525	△ 18	-3%
図書	(1,417)	1,443	25	2%
美術品・収蔵品	(4,947)	4,962	14	0%
現金及び預金 ※2	(4,290)	4,879	589	14%
負債の部	(10,633)	11,107	474	4%
【主な科目】				
資産見返負債	(3,815)	3,862	47	1%
長期前受収益	(2,027)	1,939	△ 88	-4%
運営費交付金債務 ※3	(276)	404	127	46%
寄附金債務	(2,806)	2,820	13	0%
未払金 ※4	(851)	1,142	290	34%
純資産の部	(60,574)	60,442	△ 131	0%
【主な科目】				
前中期目標期間繰越積立金	(71)	71	0	0%
目的積立金	(571)	538	△ 32	-6%
当期未処分利益	(221)	222	1	1%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

※1 工具器具備品：全体的に老朽化・陳腐化は進行しているが、目的積立金による奏楽堂舞台照明調光盤一式(79百万円)の取得等により、例年より減少幅が縮小している。

※2 現金及び預金、※4 未払金：4月支払いの建設仮勘定(施設整備費による彫刻棟改修その他工事等)の増加等により、前年度より増加している。

※3 運営費交付金債務：運営費交付金措置額が増加したことにより、前年度より127百万円(46.0%)増加している。

2. 損益計算書の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和元年度)	令和2年度	増減額	増減比
経常費用	(8,802)	8,784	△ 17	0%
【主な科目】				
教育経費	(1,525)	1,589	64	4%
研究経費 ※1	(335)	404	69	21%
受託研究費等 ※2	(887)	648	△ 238	-27%
人件費	(5,329)	5,294	△ 34	-1%
一般管理費 ※3	(380)	494	114	30%
経常収益	(9,016)	8,927	△ 88	-1%
【主な科目】				
運営費交付金収益	(4,932)	4,839	△ 92	-2%
学生納付金収益	(2,114)	2,100	△ 13	-1%
受託研究等収益等 ※4	(908)	654	△ 253	-28%
寄附金収益 ※5	(261)	321	60	23%
施設費収益 ※6	(44)	291	247	553%
補助金等収益 ※7	(196)	291	95	48%
入場料収入 ※8	(68)	4	△ 63	-93%
公開講座等収入 ※8	(69)	33	△ 35	-51%
経常利益	(214)	143	△ 71	-33%
臨時損失 ※9	(17)	46	28	163%
臨時利益 ※10	(1)	10	8	715%
目的積立金等取崩額 ※11	(23)	115	92	399%
当期総利益	(221)	222	1	1%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

※1 研究経費、※5寄附金収益：クラウドファンディングによる寄附金財源での執行額の増加等により、前年度より増加している。

※2 受託研究費等、※4 受託研究費等収益、※8 入場料収入、公開講座等収入：コロナ禍における受託事業等の減少および演奏会・展覧会・公開講座の見合せ等により、前年度より減少している。

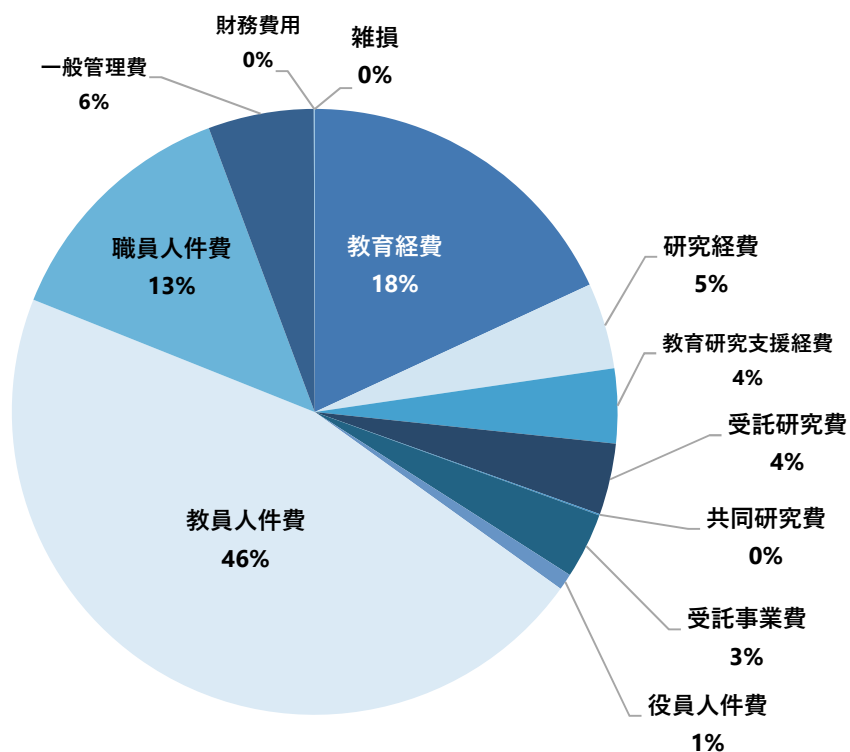
※3 一般管理費、※6 施設費収益：施設費による取手校地ライフライン再生工事等により、施設費収益は前年度より増加し、本工事に係る構築物等の建物修繕費・移設撤去費の増加等により一般管理費は前年度より増加している。

※7 補助金収益：令和2年度からの高等教育修学支援新制度補助金およびコロナ対策関連の補助金の受入等により、前年度より増加している。

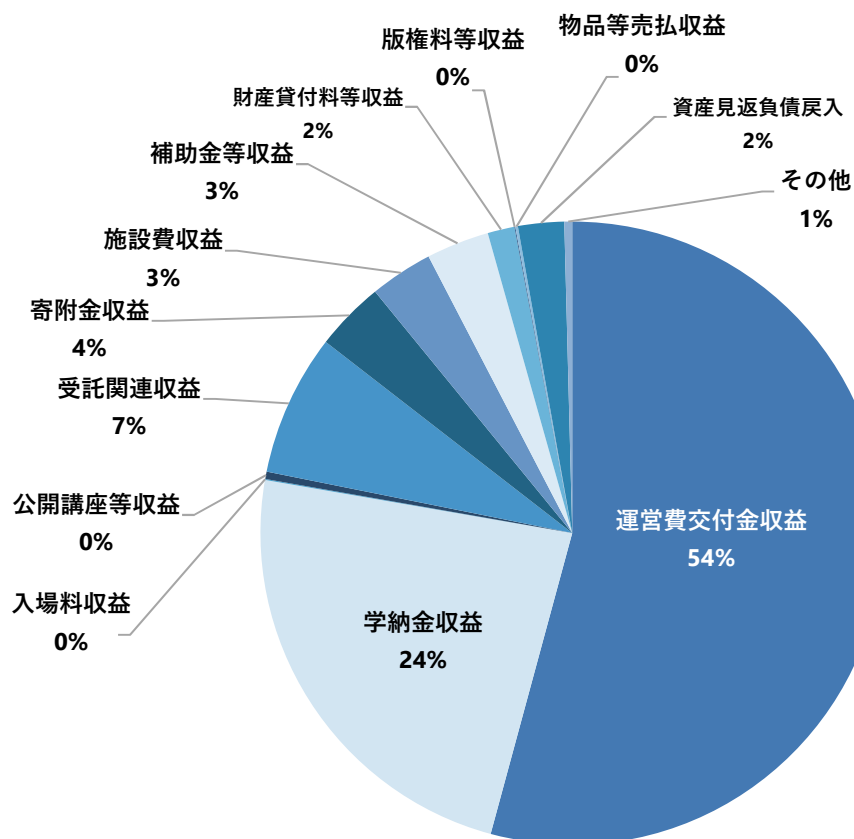
※9 臨時損失、※10 臨時利益：社連センター及び大学会館の解体等により臨時損失は前年度より増加し、資産の売却等により臨時利益も増加している。

※11 目的積立金等取崩額：目的積立金の計画的な執行により前年度より増加している。

経常費用の内訳



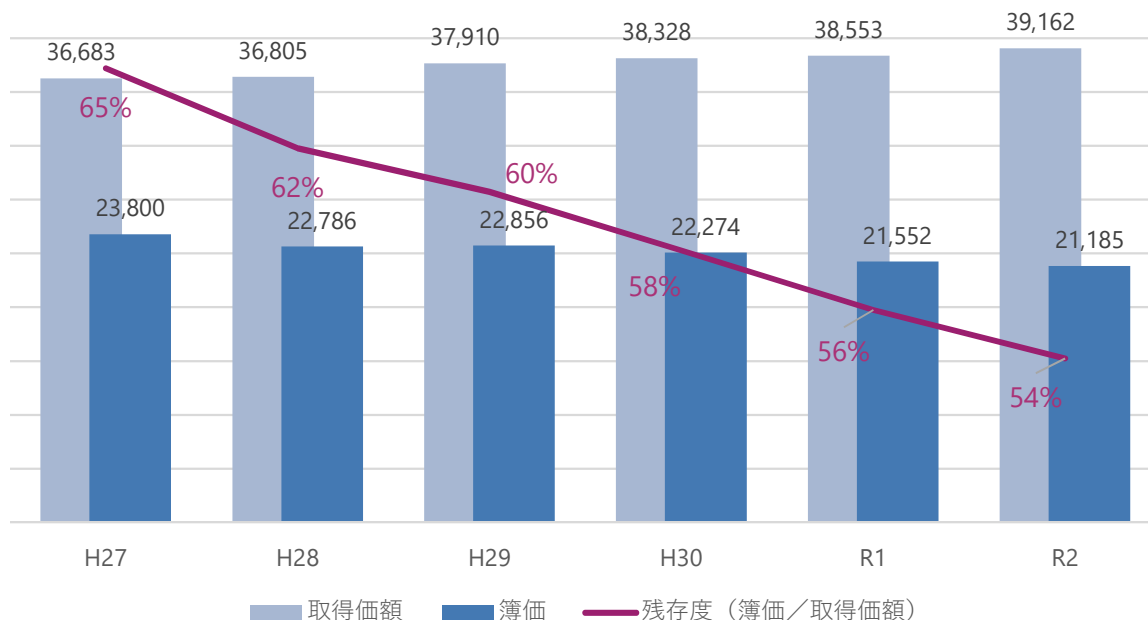
経常収益の内訳



3. 有形固定資産

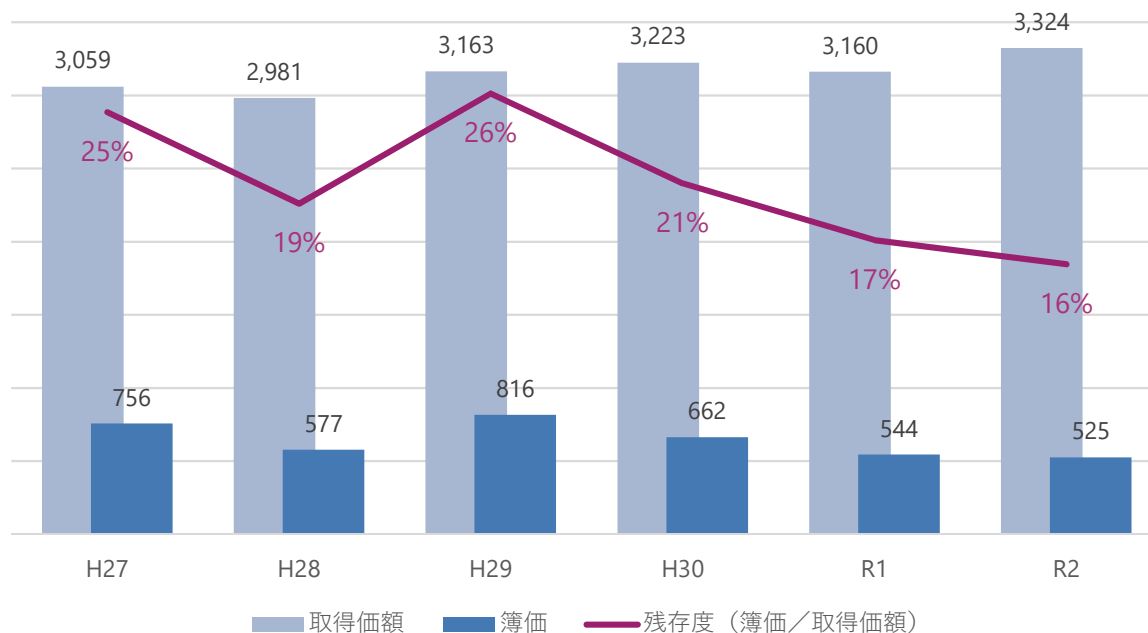
施設(建物・構築物)の推移

(単位：百万円)



設備(工具器具備品)の推移

(単位：百万円)

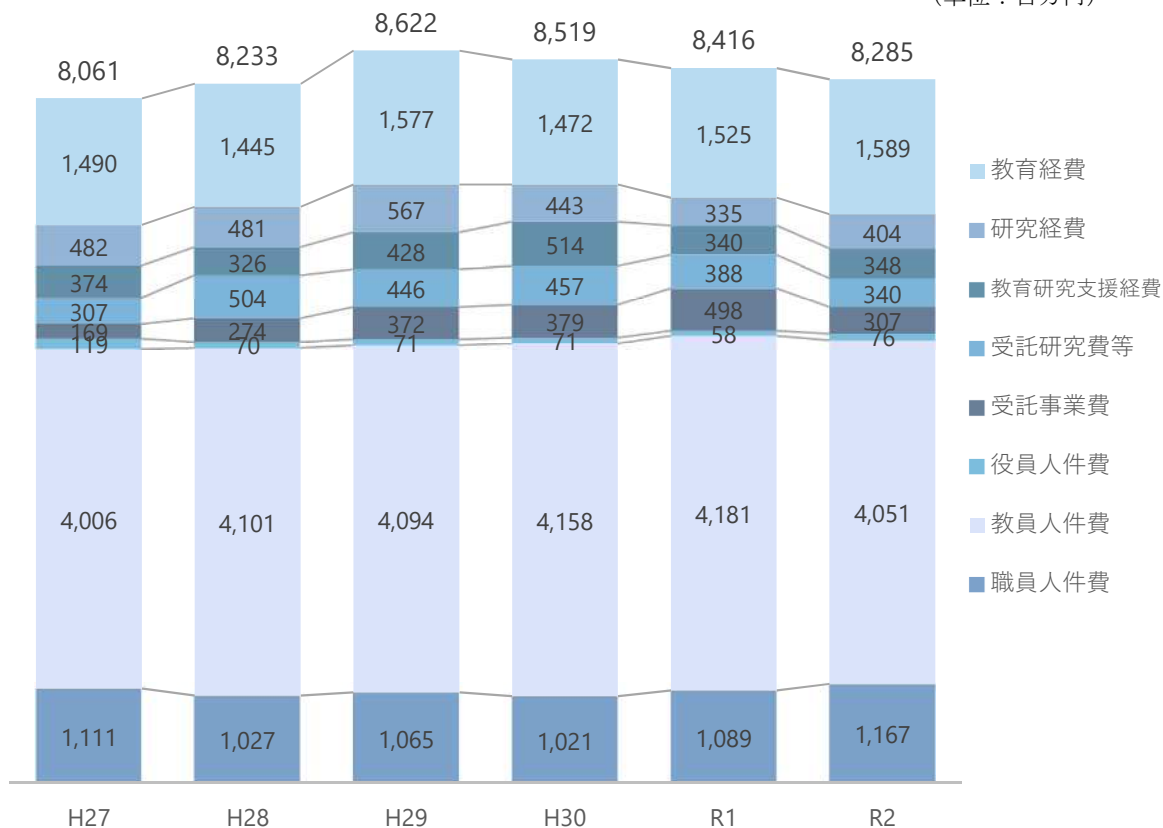


施設・設備への投資により取得価額が増加している一方で、簿価は減少しているため、施設・設備の老朽化・陳腐化が進んでいることがわかる。残存度(簿価／取得価額)も減少傾向にあるため、投資は進んでいるが、それ以上に老朽化・陳腐化が進んでいることがわかる。

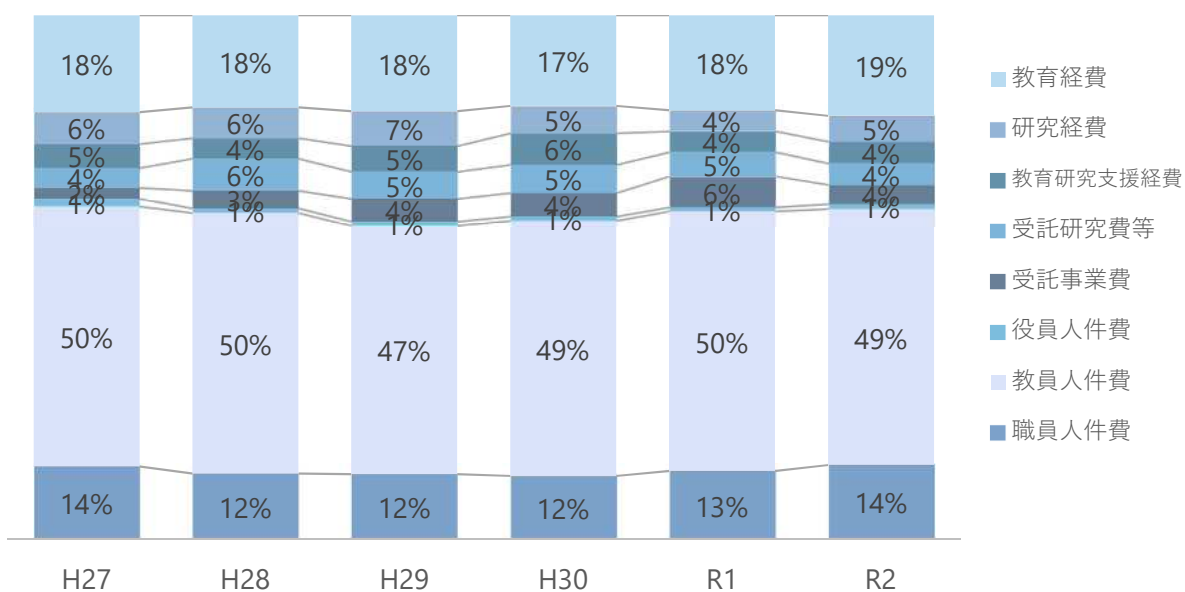
4. 業務費

業務費の金額の推移

(単位：百万円)

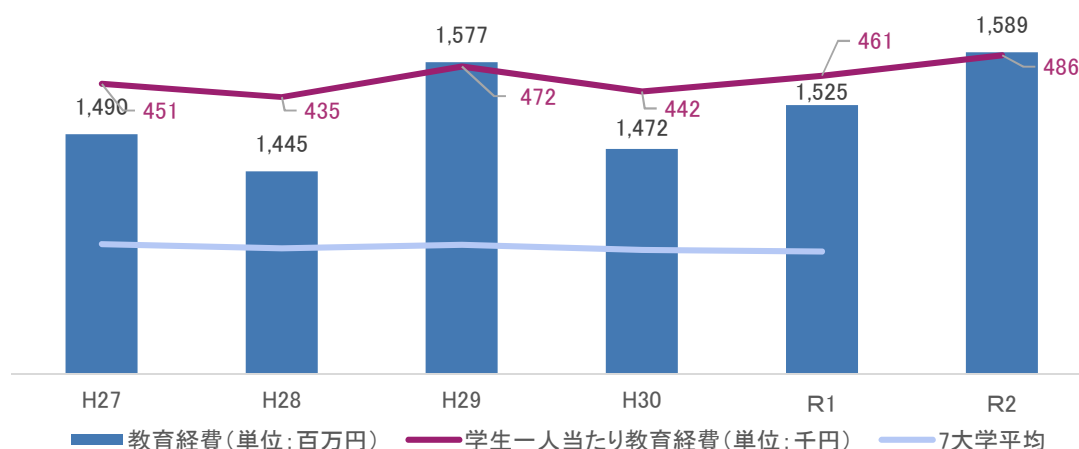


業務費の割合の推移



5. 教育経費・研究経費

教育経費の推移

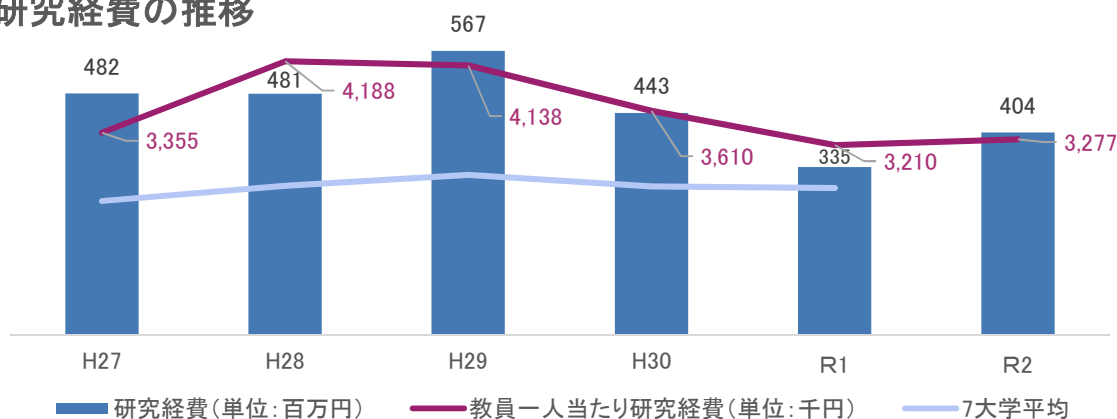


学生一人当たり教育経費: 学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにつけられた教育目的の物件費等が大きいことを示す。

7大学: 文科系7大学(小樽商科大学、福島大学、筑波技術大学、東京外国語大学、東京芸術大学、一橋大学、滋賀大学、大阪外国語大学)

教育経費は、平成30年度以降増加傾向にある。令和2年度については、彫刻棟改修その他工事等により増加した。学生一人当たり教育経費については、近年、同グループの7大学の平均を上回る傾向にある。

研究経費の推移



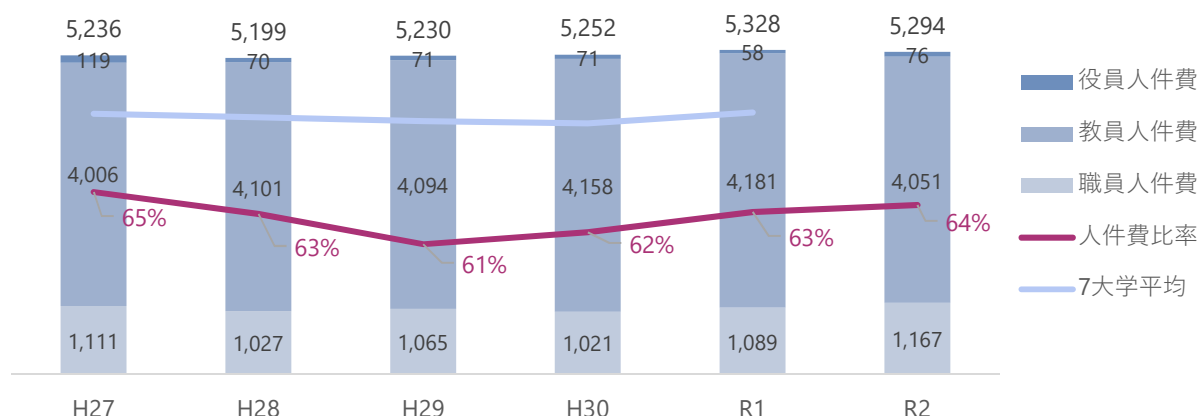
教員一人当たり研究経費: 常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにつけられた研究目的の物件費等が大きいことを示す。

研究経費は平成30年度以降減少傾向であったが、令和2年度はクラウドファンディングによる寄附金財源での執行額の増加等により増加に転じた。教員一人当たり研究経費については、近年、7大学平均を上回る傾向にある。

6. 人件費・一般管理費

人件費の推移

(単位：百万円)



人件費比率：人件費が業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できる。

人件費の総額は同程度で推移しているが、平成30年度以降は業務費総額が減少しているため、人件費比率が上昇傾向にある。

・役員人件費は、令和元年度は理事職の一部を職員が兼務したため減少したが、令和2年度は当該兼務が解除されたためそれ以前の水準に戻っている。

・教員人件費は近年増加傾向であったが、令和2年度は退職手当の減少等により前年度より130百万円減少している。

・職員人件費は平成28年度以降は同程度で推移していたが、令和2年度は退職手当の増加等により前年度より78百万円増加した。

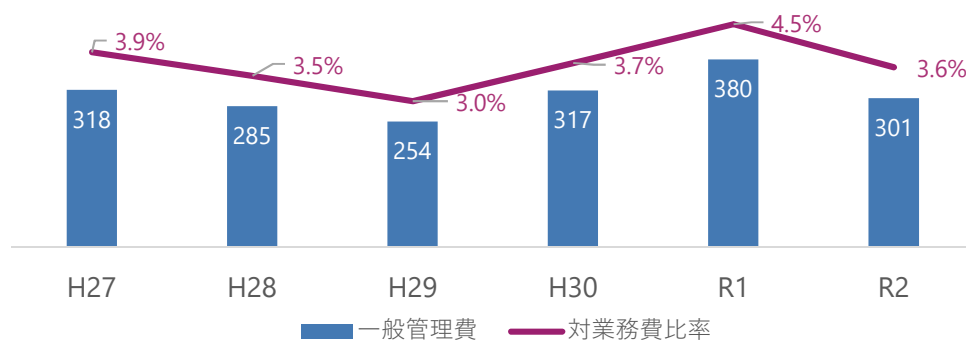
・他大学と比較すると、人件費比率は、近年、7大学平均を下回る傾向にある。

一般管理費の推移

(単位：百万円)

(平成30年度分についてはPCB廃棄物処理費への支出255百万円を除いた金額を表示)

(令和2年度分については取手校地ライフライン再生工事に係る支出193百万円を除いた金額を表示)

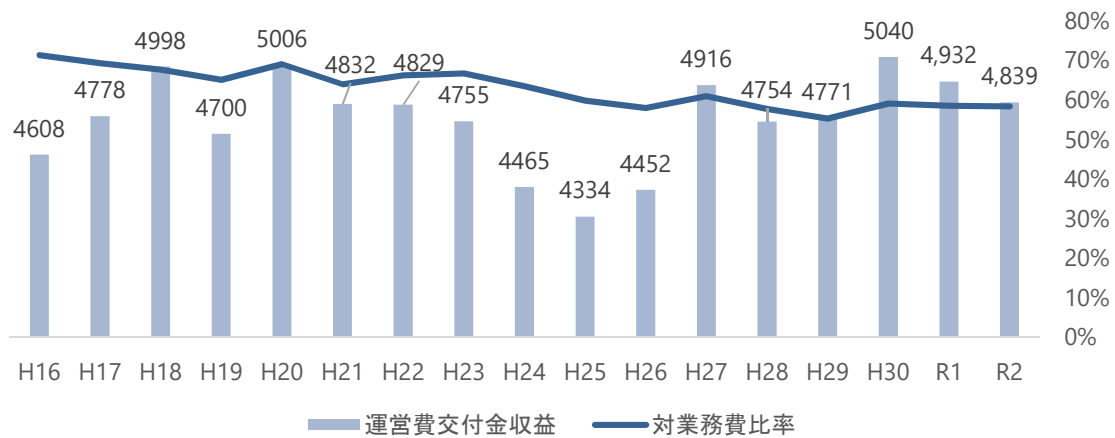


一般管理費については、平成30年度・令和元年度は増加したが、主なる要因は台風等の災害による設備等や樹木倒木被害の修繕費の増、老朽化による修繕工事の増、派遣職員の委託費の増及び消費税増税の影響であった。令和2年度については、コロナ禍における大学全体の水道光熱費の減少等により、前年度より減少した。

7. 運営費交付金

運営費交付金収益の推移

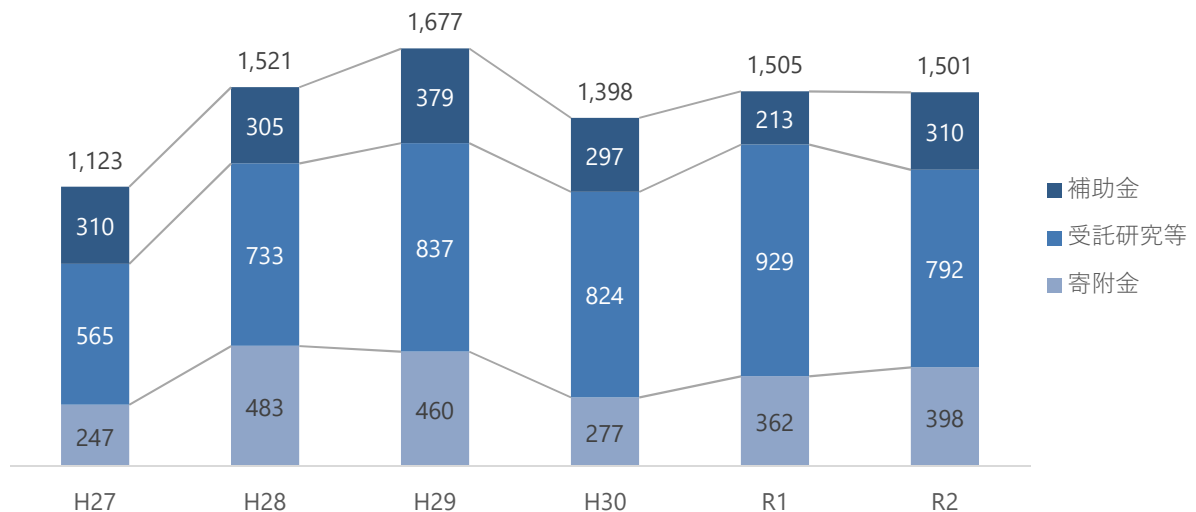
(単位：百万円)



運営費交付金収益は平成25年度までは減少傾向、平成26年度以降は増加傾向にあった。令和2年度については、前年度より減少しているものの、これは前年度まで交付金にて措置されていた授業料等免除予算が補助金(高等教育修学支援新制度補助金)に移管されたこと等によるものである。

外部資金の推移 (平成28年度の寄附金から1件分(10億円)マイナス)

(単位：百万円)

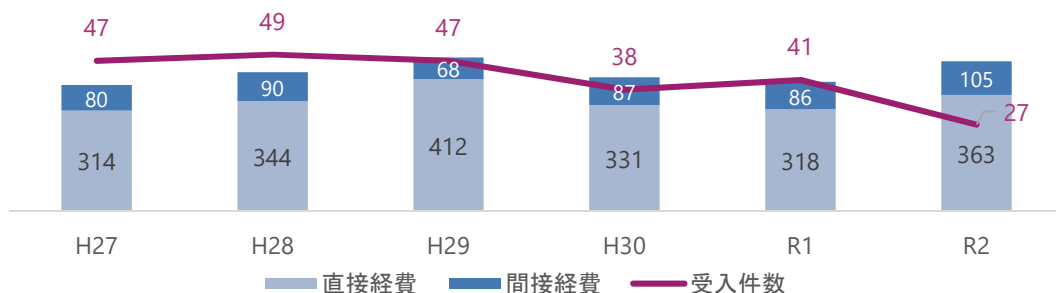


外部資金の中では受託研究等が最も金額が大きく、かつ近年増加傾向にあったが、令和2年度はコロナ禍の影響等で減少した。寄附金・補助金については、年度によって金額のばらつきがあるが、令和2年度はクラウドファンディングによる寄附金の増加やコロナ対策関連の補助金の増加等により前年度より増加した。

9. 受託研究等

受託研究等の受入額・受入件数の推移

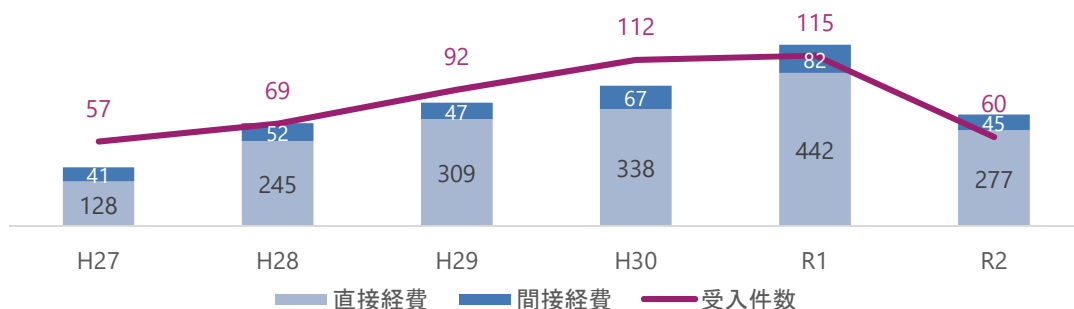
(単位：百万円)



受託研究等については、受入件数は減少傾向にあるものの、受入額に近年大きな変化はない。令和2年度は受入件数は減ったものの、大型の受託研究があったため受入額は増加した。

受託事業等の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)



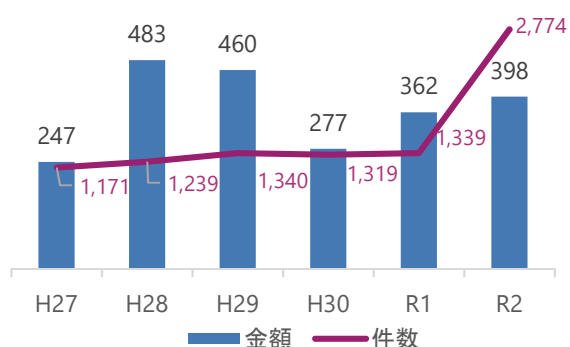
受託事業等については、受入件数・受入額ともに近年増加傾向にあったが、令和2年度はコロナ禍の影響等により減少した。

10. 寄附金

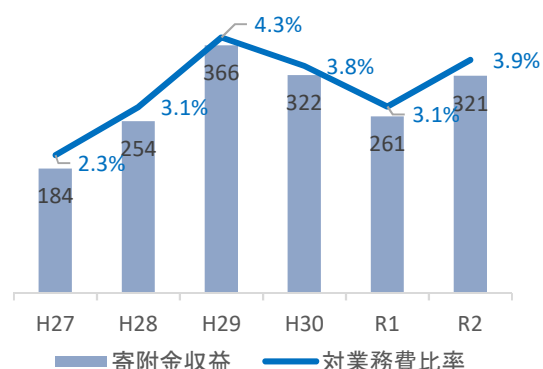
(単位：百万円)

寄附金受入額の推移

(平成28年度の寄附金から1件分(10億円)マイナス)



寄附金収益の推移



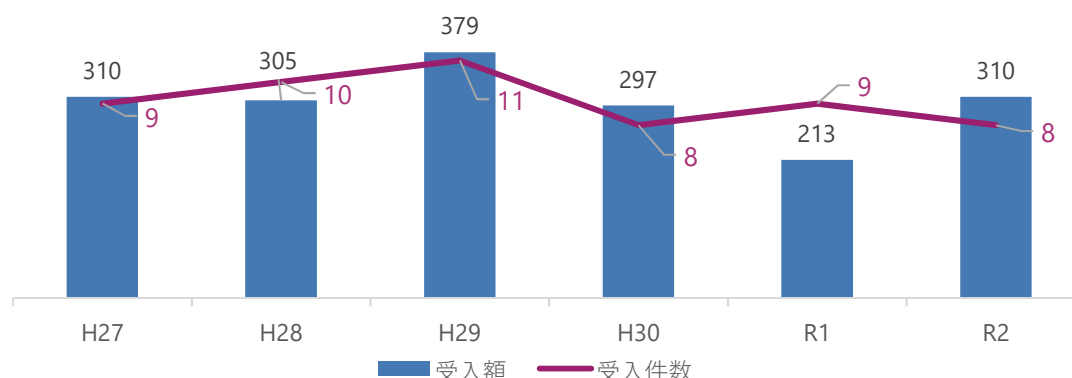
寄附金の受入額の推移を見ると、受入件数は一貫して増加しており、金額についても増加傾向にある。特に令和2年度は、クラウドファンディングによる若手芸術家支援基金等の受入により、受入件数は前年度の2倍程度に大きく増加した。

寄附金収益及び対業務比率の推移を見ると、寄附金収益の増減に伴い対業務費比率も同様に推移していることから大学業務全体に占める寄附金への依存度は変化していないといえる。

11. 補助金等

補助金等の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)

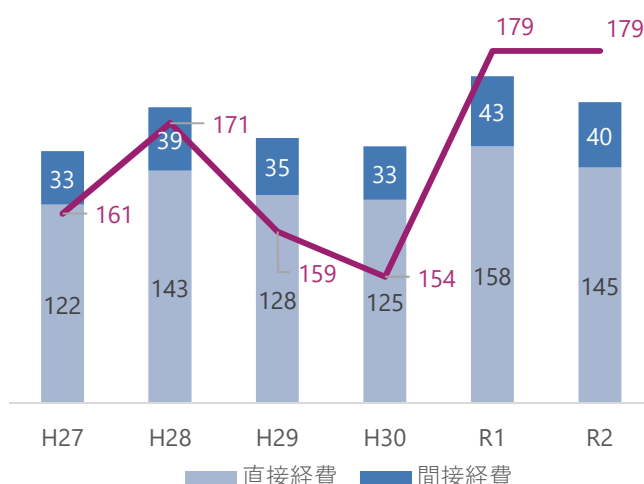


補助金等の受入件数は同程度で推移しているが、受入額については大型の補助金の有無等により毎年変動がある。令和2年度には、新たに高等教育修学支援新制度補助金(69百万円)やコロナ対策関連の補助金の受入等があり増加した。

12. 科研費

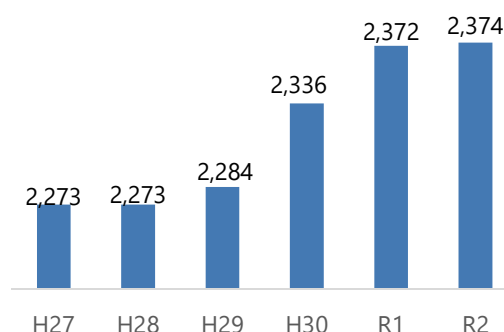
科研費の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)



参考：国の科研費の予算額の推移

(単位：百万円)



※日本学術振興会「科研費の予算額の推移」
(2021年6月9日閲覧)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/data/1-1/1-1_r2.pdf

令和元年度は受入額・受入件数ともに前年度より増加したが、令和2年度は受入件数は前年度と同数であったものの受入額は減少した。
一方、国の科研費の予算額は近年増加傾向であったが、令和元年度以降は横ばいとなっている。



TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 戦略企画課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal